

23社が最新の商品、技術提案

差別化やエコマコ広報・企画エコも訴求

アジア・アパレルものづくりネットワーク

23社が最新の商品、技術提案

差別化やエコも訴求

中国やASEAN(東南アジア諸国連合)などにアパレル生産工場を展開する企業で組織するアジア・アパレルものづくりネットワーク(AAP)の展示会が1月30日、東京・千駄ヶ谷

のオーダー・オブ・メリット・プランニングのイベントホールで始まった。「アパレル業界が元気になるような各社の特徴を打ち出す」(主催者)ため、統一したテーマを設けず、出展企

業ごとにサンプルや技術を紹介するブースで、商談につながるようにした。初日は来場者でにぎわい、3日間で約3000人の来場を見込む。2月1日まで、AAPは協賛企業を含め60社で



各社の生産や技術を昇華し、商談の活発化を狙った

市場にチャレンジする」。サンティクス(岐阜県関市)は縫い目のないジャケットやコートを見せた。レーザーで生地を裁断し、超音波で糸を使わずに接合、圧着テープで仕上げるため「段差がなく肌へのあたりもない」製品が生まれる、軽く着心

構成。展示会にはサンティクス、小島衣料、湯峰ソーイング、レナンミツアキ、秋田丸善繊維、吉岡、サンウエル、養馬刺繍、片山縫製、アパールのほか、協賛企業12社の合計23社が出展した。

中国江西省南昌市で01年から縫製工場を運営する片山縫製(岐阜県養老町)はテキスタイルメーカーのアスカ(岐阜市)と協業し、セルロース(テンセル)やリヨセルを使った「森の繊維」のレディスポトムを提案した。環境に優しく接触冷感のある森の繊維は、これまで欧州向けの素材だったが2年前から日本のポトム向けに販売し、売れ行きが良かったことから本格的に日本市場を狙う。テンセルやリヨセルを50%以上使い、綿や麻などを組み合わせる。素材から縫製までを中国で一貫生産し、今後はデザイナーも入れてODM(相手先ブランドによる設計・生産)で受注を目指す。小売価格は7800~1万3000円を想定し、「同質化した

地の良い服に仕上がるのはもちろん、縫製ミシンの熟練が不要のため、生産の効率化を見込める。現在は本社に設備を置き、来年春の市場展開を目指す。カンボジア・フロンペンでレディスアウターを生産するロックス(岐阜市)は、欧州の著名ブランドを手掛ける技術力をアピールした。副資材の吉岡(岐阜市)はサステイナブル(持続可能な)素材を使ったパッドや衿わたを紹介したほか、ポリエステルにセラミックを練り込んで着用時に温度を快適に保つ「MDS」(メデイカルサポート)を使ったレディスアウターを見せた。